

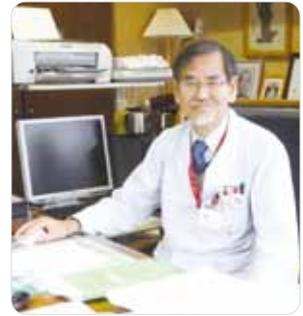
地域医療連携だより

## やまびこ

発行日：平成 25 年 1 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

## 本年もよろしく お願いいたします！

高山赤十字病院 病院長 棚橋 忍



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。  
 本院が地域医療支援病院に指定されて 1 年が過ぎました。開業医の皆さんのご支援のおかげで、おおむね順調に経過しています。平成 24 年度の紹介率、逆紹介率はそれぞれ 64%、45%前後で推移しております。昨年 11 月に県の監査も受けましたが、大きな問題は指摘されていません。今後とも地域の医療機関と連携を密にし、共同機器利用、開放病床の有効利用、医療従事者の研修等に努めてまいります。

本院は地域医療支援病院として、地域の医療の確保、質の向上が大切な任務です。この一環としてMRI装置の更新を予定しております。現在、放射線科の一部改修を終了し、3 月には装置の設置が済み次第稼働を予定しています。今までより鮮明な画像を提供し、診断・診療に貢献できると考えています。また、平成 25 年度は現在稼働していますリニアック（ライナック）を更新する予定です。現在のリニアックは平成 15 年 3 月更新したのですが、時間が経ち故障も見られるようになり、部品の交換も懸念されています。さらに、医学の進歩は速く、今の放射線治療の水準からは遅れが見えるようになってきました。リニアックは高額な機械で、本院のような僻地の病院が備えるには経済的には無理があります。しかし、現在の飛騨地域の多数の患者さんが治療を受けてみえること、もし本院が設置しなければ患者さんが岐阜まで行かなくてはならなくなり、がん患者さんが適切な時期に放射線治療を受けることができなくなること、「がん難民化」などが心配されますので、飛騨地域に今後も必要であると判断し更新に踏み切りました。今後高額医療機器を含め、地域全体でどのような医療が必要で、どのように確保していくかを行政、医療機関、住民の皆さんと共に考える時期に来ていると思います。

さて本院は昨年11月に日本赤十字社の病院になって 90 年周年を迎えました。創立時より飛騨地域における医療の最後の砦として活動してこられたのもひとえに住民の皆様のご協力、開業医の先生方の支えと先輩職員の地道な努力のおかげと感謝申し上げます。今後 10 年は 100 周年に向けてどのような病院を作っていくか考えながら医療を行う時間となりますので、職員一同頑張っ参ります。

最後になりましたが、飛騨地域の医療機関及び医療従事者の皆さまのご多幸を祈念申し上げます。

### 目 次

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| ● 本年もよろしくお願いいたします！ …… 1         | ● 研修・講演・勉強会のご案内 …… 5            |
| ● 第22回 飛騨在宅酸素療法研究会 報告 …… 2      | ● 新任医師の紹介 …… 6                  |
| ● 第4回地域脳卒中連携研修会 報告 …… 3         | ● 退任医師 …… 6                     |
| ● 第2回 飛騨地域核医学医療連携セミナー開催 報告 …… 4 | ● 平成24年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告 …… 6 |
| ● 飛騨地域 緩和ケアセミナー開催 報告 …… 5       | ● 編集後記 …… 6                     |
| ● 岐阜大学医学部附属病院から感謝状が来ました …… 5    |                                 |

## 「飛騨在宅酸素療法研究会について」

飛騨在宅酸素療法研究会 代表世話人

高山赤十字病院 西尾 優

本年度も、飛騨・世界生活文化センターにおいて同研究会を開催致しました。一般演題：2 題、パネルディスカッション：『飛騨地域における在宅酸素療法患者の退院調整の現状と課題』と称して、各施設（ケアプランセンター、訪問看護ステーション、病院、介護施設等）から 6 題のご発表を賜り、活発なディスカッションにおいて、現状と課題を参加者の皆様で確認させて頂きました。また、特別講演は、『NPPV を巡る物語 ～暮らしと在宅呼吸ケア～』と題して、亀井内科・呼吸器科 亀井三博先生からご講演を賜りました。先生は、暮らしに重点を置かれ、“ある種厳格な管理ではなく自然体の在宅 NPPV 療法”を展開されておられました。医師 9 名、看護師 59 名、理学療法士 12 名、臨床工学士 1 名、保健師 2 名、ケアマネ 22 名、MSW4 名、その他 9 名、総勢 118 名と多数の方々に参加して頂きました。その後のアンケートでも、大変意義深いご回答を頂いています。在宅酸素療法は、1986 年、保健適応となりましたが、本研究会はその 5 年後の 1991 年（平成 3 年）に発足し、年一回の開催ですが、継続され現在に至っています。ひとえに関係各位の方々のご協力の賜物とあらためて感謝申し上げます。

慢性呼吸不全患者さんは、入退院を繰り返す可能性が高く、循環型の在宅医療であると思われま。病院と地域が連携を密にとりシームレスであることが重要であることは言うまでもありません。本研究会の目的は、在宅酸素療法や在宅人工呼吸器療法に関わる飛騨地域の全ての方々の認識の共有化を図ることで、患者満足度と関係スタッフ満足度を向上することであると考えています。よって、研究会で成果を発表することも大切ですが、関係スタッフが連携し成果を形成していく過程にこそ意義があるものと考えています。当飛騨地域は、それができる地域と確信しております。今後とも関係者皆様のご協力とご支援を賜りますよう何卒お願い申し上げます。



## 第4回 地域脳卒中連携研修会 報告

(飛騨保健所生活習慣病医療連携推進事業)

平成24年11月1日(木)

### 「脳卒中発症後の 地域連携について」

郡上市民病院 脳神経外科

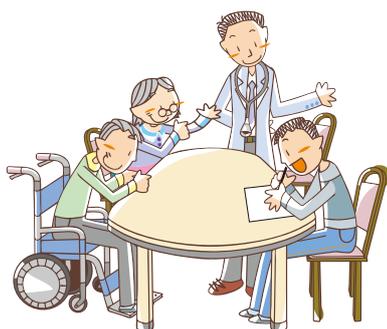
山川 弘保



寝たきり状態になってしまうことが一番多いと言われている病気が脳卒中です。突然、手足が動かなくなり救急車で病院へ運ばれ、その後、リハビリを一生懸命やっても後遺症が残ってしまう…。脳卒中にかかると患者さんはもとより、ご家族にも大変な日々が待っています。そうした状況を一人で抱え込まないよう、地域の医療・介護・保健関係者等で連絡を取りながらみさせていただくのが脳卒中中の地域連携です。

しかし『地域連携』といくら声高に唱えても、それに取り組んでいる関係者の情熱がなければうまくいきません。そこで私達（医療従事者）が、これから取り組んでいかなければならないのは、次のようなことだと考えています。①積極的に患者さんのご自宅へ出かけて行って現状を直視すること、②介護・保健行政関係者に対して垣根が高いと思われないようにすること、③自分が『そう』思うことが重要なのではなく、地域の住民は『どう』思っているかを尊重すること。

私が勤務している郡上市民病院では、①～③を実現するために、①往診の充実、②地域連携関係者との懇親会を実施、③ナイトスクール（公民館での地域座談会）を開催することで『地域の生の声』を聞かせていただく、等の取り組みを通じて理想的な地域連携を構築できるよう、目下、奮闘中です。



## 第2回 飛騨地域核医学医療連携セミナー開催報告

平成24年10月3日(水)

放射線科 中田 幸博

飛騨地域核医学医療連携セミナーを開催しましたところ、たくさんの皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。【PET / CT をどう活用するか】ということで日常臨床の中で FDG-PET/CT の有効な活用方法や読影のポイントを京都大学大学院医学研究科の中本裕士先生にご講演いただきました。飛騨地域で唯一、久美愛厚生病院に導入されました PET / CT を医療連携を通じて有効活用していただくよう、当病院からもお願いします。重ねて、いつも当院地域連携課を通じて、MRI、CT 等、医療機器共同利用ありがとうございます。これからもご利用しやすい体制を作って参りますので、さらなるご利用をよろしくお願いいたします。



### 医療被ばく？大丈夫？（放射線科コラム Ver.1）

ところで、よく患者様から、『こんなに放射線を浴びても大丈夫かな？』と聞かれます。あなたの施設ではないですか？ こんなとき、どう答えていますか。

がんを治療するのに、1回に胸部の写真の10000回分浴びます。それを毎日、30回ぐらいやっても、体は、耐えています。胸部1枚や2枚では影響ありません。大丈夫です。胸部写真を撮らずに肺炎でも見逃していたらそちらの方が大変です。

疑問2.『こどもに将来悪い影響は出ませんか？』原爆被爆者のかたの調査から、影響が出そうな線量は示されていますが、医療の被ばくを繰り返しても、その量には達することはないでしょう。現在の医療で使われている程度の放射線で悪い影響が出たという事実はありません。

また、妊娠と気づかずに検査を受けてしまった。大丈夫ですか。など、いろいろ質問があります。今回は、2つの質問だけでしたが、時々質問コーナーなど設けていきたいと思えます。わからないことがありましたら、当院放射線科へご連絡ください。



大丈夫？

# 飛騨地域 緩和ケアセミナー開催 報告

平成 24 年 10 月 27 日 (土)

## 高山赤十字病院緩和ケアチーム

当院の地域医療研修センターにて『飛騨地域 緩和ケアセミナー』を開催しました。当日は飛騨地域の医師をはじめとする、がん緩和ケアに関わる様々な職種の方、42名の参加がありました。

今回は【『高山赤十字病院』がん性疼痛マニュアル 2012 の紹介】と題し、今年度リニューアルしたマニュアルの説明と、講演の前に『ライナック見学ツアー』を企画し、普段なかなか入る機会のない放射線治療室を希望者に見学していただきました。

参加された方からは「実際に使用する機器を見られてとても参考になった。」「普段見られない治療計画の様子や実際の照射の様子(シュミレーション)をみることでよかった。」また、セミナー全体としては、「マニュアルがとてもわかりやすいと思った。」「いろいろな職種の人たちが、多方面から働きかけることで、一層より良い緩和ケアになることを感じました。」などの感想をいただくことができました。

今後も、飛騨地域の緩和医療の充実のため、チームが一丸となり院内外へ向けて様々な情報を発信していきたいと思っております。



**この度、地域医療に貢献した  
として岐阜大学医学部附属  
病院から感謝状が来ました。**



## 研修・講演・勉強会のご案内

- ・「第13回病診連携症例検討会」 H25年2月13日(水) 19:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第2回地域連携講演会・意見交換会」 H25年2月16日(土) 16:00より 高山グリーンホテル
- ・「がん化学療法に関する検討会・講演会」 H25年3月13日(水) 18:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「がん放射線療法に関する検討会・講演会」 H25年3月15日(金) 18:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第3回糖尿病地域連携講演会」 H25年3月24日(日) 14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂

※詳細は、追ってご案内いたします。

# 新任医師 の 紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 診療に対するモットー & 自己紹介 など



11月に1名の医師が赴任しましたので、ご紹介します。



- ① 循環器内科 副部長
- ② **川村 一太** (かわむら いった)
- ③ 循環器専門医 総合内科専門医 核医学専門医
- ④ 11月から高山赤十字病院循環器内科に赴任しました 川村 一太 (かわむらいった) と申します。国立国際医療研究センター、岐阜大学附属病院などで循環器および内科一般に従事して来ました。当地域の医療に少しでも貢献出来るように頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

## 退任医師

循環器内科 鷲見 将平 10月31日付

お疲れさまでした

## 平成24年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を12月5日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう審議し定期的に開催される委員会です。

委員会では11月に地域医療支援病院の監査を受けた事や、紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績報告をいたしました。又、脳神経外科竹中部長より「ACT FAST」の演題でミニレクチャーが行われました。

意見交換では医師不足、予防接種、認定看護師、ヘリ搬送に関する事など委員の方から多くのご意見を頂きました。

## 編集後記

冬のスポーツが真っ盛りですが、皆さんは何がお好きですか?私はフィギュアスケートが大好きで、よくテレビ観戦します。伸び盛りの若手が大躍進する中、ベテラン域の選手も負けていません。一発勝負ですが、日頃の練習成果を出せるようにと祈りつつドキドキしながら応援しています。

日々の業務のなかで悩むことも多いですが、毎日の積み重ねが、一言・一瞬に活きているのだと信じ、橋渡しの業務をしたいと思っています。

地域連携課 嶋田喜美子



日本赤十字社

高山赤十字病院  
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地  
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165  
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp  
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>